

式辞

やわらかな雨に洗われた満開の山桜の花が、春という命が輝く季節の豊かさを感じさせる今日の良き日に、ご来賓の皆様、保護者の皆様のご臨席のもと、平成二十九年度の入学式を挙行できますことは、本校にとりましてこの上ない慶びでございます。

ご来賓の皆様におかれましては、公私ともご多用のところご臨席を賜り、誠にありがとうございます。高いところからではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、六十二名の一年生の皆さん、ご入学おめでとうでございます。皆さんは今日からこの藤城小学校の一年生です。私たち教職員と在校生は、皆さんが入学して来るのをとても楽しみにしていました。

学校では、勉強したり、運動したり、友達と仲良く遊んだりしながら人と共に生きる力を身に付けていきます。

藤城小学校が大切にしてきたことは「思いやりの心をもって、生き生きと活動する子」に育ててほしいということです。そのために、次の三つのことを頑張りましょう。

一つ目は、しっかりと勉強して、人の話を一生懸命に聴ける子になりましょう

二つ目は、あいさつがしっかりできる、相手のことを考えられる子になりましょう

三つ目は、たくさんの友達と元気に遊べる健康な体をつくりましょう

この三つのことは、これからの六年間、皆さんの心の中にしっかりと持っておいてください。

さて、今日は、お父さんやお母さん、おうちの方と一緒に来ましたが、明日からは、学校のお兄さん、お姉さんと一緒に学校に来ます。

通学路では、そちらにいらっしゃるピンクのジャンパーを着た多くの地域の方々が、皆さんの登下校を見守って下さっています。ピンクのジャンパーは、ほっと安心できる家族の色です。

朝、顔を合わせたら、元気に「おはようございます。」と、挨拶をしてくださいね。

さあ、毎日、元気に学校に来てください。待っています。

保護者の皆様にご挨拶申し上げます。お子さまのご入学、誠にありがとうございます。今日からの六年間、大切なお子さまをお預かり致します。

今の日本は、急速なグローバル化や高度情報化など、将来の予測が難しい時代を迎えています。このような時にこそ、子どもをいつくしみ、学校と家庭と地域とが一体となって子どもを育てていこうという、ここ京都市に時代を超えて息づく文化、いわゆる「はぐくみ文化」を共有し、実践していくことが大切でしょう。

金子みすゞという詩人に「土と草」というとっても短い詩があります。こんな詩です。

母さん知らぬ 草の子を、
なん千万の草の子を、

土はひとりで育てます。

草があおあお茂ったら、
土はかくれてしまうのに。

土は多くの命を育てます。その命が育つにつれ、土そのものは葉っぱや花で見えなくなる。

これは、子育てをする親の姿と重なるものがあります。大きく花開き、一人前になったように見えても、実は隠れて見えない土によって生かされている。目には見えないが、決して切れない結びつき。結び結ばれ生きている。それが親と子のつながりです。だからこそ、思い切り我が子の成長に、力添えをしていきましょう。よろしくお願いいたします。

藤城小学校では、絶えず情報発信をしながら、各家庭や地域の皆さま、行政の皆さまと共に、子ども一人一人の可能性を引き出し、個性豊かなたくましい子どもに育つような教育実践に取り組んでいきたいと思っております。

不行き届きな点多々あるかと思いますが、皆様と共によりよい学校創りに努めて参ります。どうか、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

これを持ちまして、甚だ簡単ではありますが、入学式の式辞とさせていただきます。

平成二十九年四月十日

京都市立藤城小学校

校長 加藤 尚登